

『システム英単語 TOEIC[®] テスト』 はしがき

1 本書の特長

1) 信頼のデータベース

本書の作成にあたっては、『TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編』、『TOEIC テスト新公式問題集』 vol. 1～6、『TOEIC テスト公式プラクティス リスニング編』、『TOEIC テスト公式プラクティス リーディング編』など、入手可能なすべての公式の公開資料はもちろん、アメリカ、日本、韓国でベストセラーとなっている TOEIC テスト対策本などからデータを抽出しました。さらに、『TIME』、『National Geographic』などの雑誌、映画のスク립ト、小説、評論、演説など1億語を超える独自のデータベースと照合し、TOEIC テストに出題される語彙の傾向を分析しました。その分析をもとに本書の単語は頻度順に配列され、それぞれの単語の意味まで頻度順になっていますから、TOEIC テスト対策に最適な教材です。

2) TOEIC テストに出る単語・出ない単語 ～差がつく単語はこれだ！～

大学入試や実用英語では頻出の単語でも、TOEIC テストではめったに出現しない英単語があります。たとえば、下の単語は TOEIC テストの公式問題集や公式プラクティスに1度も出現していない単語です。

ape「類人猿」、bribe「賄賂」、condemn「非難する」、desperate「必死の」、destiny「運命」、dismiss「解雇する」、epidemic「伝染病」、famine「飢饉」、hemisphere「半球」、heredity「遺伝」、invade「侵略する」、molecule「分子」、Muslim「イスラム教の」、persecution「迫害」、pneumonia「肺炎」、priest「司祭、僧侶」、virtue「美德」

これらの宗教、歴史、政治、思想、科学の文章に頻出する単語は受験英語では必須ですが、TOEIC テストには出現しません。それは TOEIC テストでは宗教や政治を論じる文章も、科学的なレポートも出題されないからです。TOEIC で出題されるのは、オフィスや家庭や学校における日常生活で必要とされる実用英語です。

brochure 「パンフレット」 → p.64

incur 「〈経費など〉がかかる、被る」 → p.254

mentor 「指導者」 → p.96

tentative 「仮の」 → p.212

complimentary 「無料の」 → p.110

itinerary 「旅程(表)」 → p.157

reimburse 「〈経費など〉を返済する」 → p.82

turnover 「離職(率)」 → p.310

これらは受験英語ではめったに出題されませんが、TOEIC テストでは頻出する英単語です。本書ではこういう **要注意単語** に **□** のマークを付けていますから、特に注意をして学習してください。受験英語に自信のある方や TOEIC 対策に多くの時間を割けない方は、この **□** の付いている単語・熟語を重点的に確認しましょう。

3) TOEIC テストに出る意味・出ない意味 ～ TOEIC テスト ≠ 英語一般! ～

TOEIC テストでは、必ずしも実用英語で頻度の高い意味・用法が出題されるとは限りません。たとえば、bill という単語は、TIME 誌や大学入試では「法案」の意味が最も多く、「紙幣」の意味も数多く出現します。ところが、TOEIC テストの bill はほとんどが「請求(書)」の意味です。同様に、account という単語は、account for A 「A を占める；A を説明する」、take A into account 「A を考慮に入れる」などさまざまな意味・用例がありますが、TOEIC テストでの account は「(銀行などの) 口座」が 90% 以上です。さらにもう一つ例を挙げると、outstanding という単語はふつう「目立った、顕著な」という意味で使われますが、TOEIC テストでは次のような用例も覚えておくべきです。

pay an **outstanding** bill

未払いの勘定を支払う

同様に、balance は「バランス、均衡」ばかりでなく、「差額、残高」の意味でも出現します。

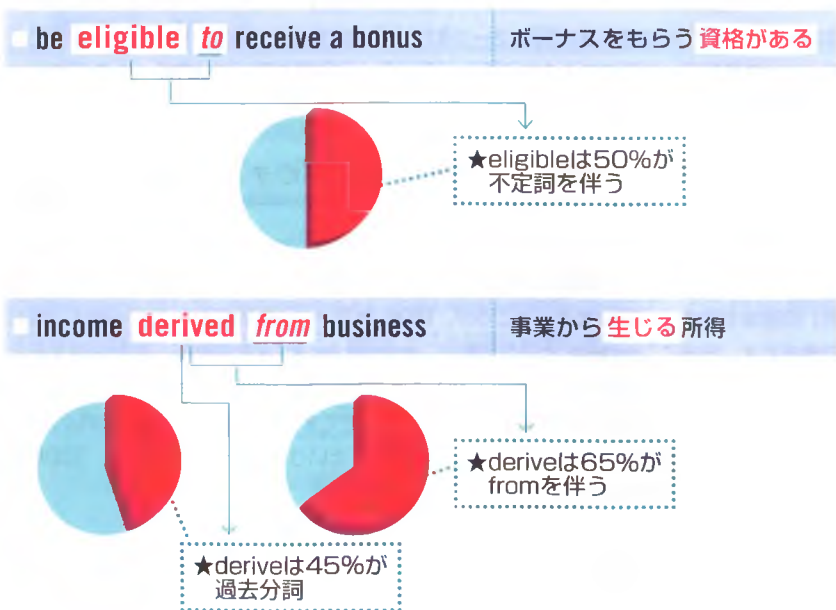
balance due upon completion

完成時に支払う **差額**

TOEIC テストで頻出するこうした身近な商業活動で使われる語彙に、本書は焦点を当てています。

4) TOEIC テスト対策に合わせた 〈KEY PHRASES〉

本書の〈KEY PHRASES〉は TOEIC テストで最もよく出現する意味・用法を凝縮したものです。たとえば次のフレーズを見てください。



〈KEY PHRASES〉の作成にあたっては、冒頭に述べた1億語を超えるデータベースで、最低でも数百、場合によると数千の用例と TOEIC テストの公式教材を確認しましたから、フレーズがそのまま登場するはずですよ。

これらのフレーズには単語のイメージ・語法が含まれていますから、それを自然と覚えることができますし、何よりフレーズ単位で意味を認識できるようになります。リスニングであれリーディングであれ、1語ずつばらばらに覚えた単語は1語ずつ認識されますが、フレーズ単位で覚えた表現は、フレーズ単位で認識されます。つまり、**フレーズ学習法は速読速聴の秘けつ**でもあるのです。一つ一つの単語を覚えようとするよりも、〈KEY PHRASES〉を丸ごと頭に入れるようにしてください。

5) 音声 CD は最短の学習法

TOEIC テストはリスニングセクションのウエイトが非常に高いのが特徴です (45 分・100 問・495 点)。英単語・英熟語を覚えるときも音を使って学習しないと対応できません。まずは付属の CD を聞きながら、書籍で〈KEY PHRASES〉を確認してください。単に CD を「聞き流す」のではなく、本を読みながら聞くのがコツです。できれば流れてくる英語に合わせてシャドウイングしましょう。耳や口を使って覚える方が学習効果ははるかに高くなります。

なお、本教材の英語はアメリカ英語とイギリス英語によって読まれています (CD, MP3 p. XI)。TOEIC テストでは、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語、カナダ英語が使用されますが、オーストラリア英語はイギリス英語を基にして近年ではアメリカ英語の影響も受けています。カナダ英語もアメリカ英語とイギリス英語の両方の要素を持っています。ですから、アメリカ英語とイギリス英語の両方に慣れていれば試験で困ることはありませんので、安心してください。

6) 〈PRACTICE TEST〉で問題演習

各 UNIT の最後にある〈PRACTICE TEST〉は、TOEIC テストそのままの形式・出題項目ですから、実戦演習のつもりで解いてください。いわば直接得点を左右する項目ですので、〈ANSWER KEY〉で問題のポイントを確認してから、次の UNIT に進みましょう。

2 TOEIC テスト受験の Key Strategy

Key Strategy 1. TOEIC テストは難しい？

長文中の英文や使用単語の平均的な長さなどをもとに、英文の Readability (読みやすさ) を数値的に判定する Flesch Reading Ease, Flesch-Kincaid Grade Level というソフトがあります。Flesch Reading Ease は数字が高い方が平易な英文で、数字が低いほど難解な英文です。この数字が 60 以上であれば英米の中学生が容易に理解できるレベルと考えられています。Flesch-Kincaid Grade Level はアメリカの学年のレベルを示し、こちらは高い方が難解ということになります。仮に 7 となっていればアメリカの中学 1 年生レベル、10 となっていれば高校 1 年生レベルということです。

この2つのソフトを使って、まず日本の代表的な大学入試問題の英語長文と、TOEIC テストなどを調べると次のような結果になりました。

	Flesch Reading Ease	Flesch-Kincaid Grade Level
国公立大 2 次・私立大入試*	39 ~ 66	9 ~ 15
TOEIC テスト / Listening	78.7	4.8
TOEIC テスト / Reading	48.8	10.2
TOEFL iBT テスト	48.7	11.5

もちろん、ソフトの数値と読む人の実感は一致しないことが多いのは言うまでもありませんが、上の数値を見る限り、TOEIC テストの英文の Readability はセンター試験レベルと言っていいでしょう。

次に語彙レベルを調べてみます。これは JACET8000 などのデータを基に、何語覚えていれば英文の何%の単語をカバーできるかという調査です。(PRODIGY 英語研究所調べ)

	4000 語レベル	6000 語レベル	8000 語レベル
国公立 2 次試験・私立大入試	94%	96%	97%
TOEIC テスト / Listening	96%	97%	98%
TOEIC テスト / Reading	94%	97%	98%
TOEFL iBT テスト	89%	93%	96%

英語をスラスラと処理するためには、98% 以上の語彙を知っていることが必要だと言われますから、TOEIC テストで目指すべきは 8000 語レベルということになります。しかし、「TOEIC テストに出る単語・出ない単語～差がつく単語はこれだ!～」(p.Ⅱ)でも触れたように、TOEIC テストには出題されない話題もありますから、8,000 語レベルの単語全部を覚える必要はありません。本書の単語で十分 950 点以上を狙えますから安心して取り組んでください。(ちなみに「システム英単語〈改訂新版〉」だと 8,500 語以上の語彙レベルになります)

これらのデータからわかるのは、TOEIC テストの英文の Readability や語彙レベルは日本の代表的な大学入試よりも簡単だということです。適切な対策をすれば、TOEIC テストのスコアは意外に早く伸びますので、臆することなく挑んでください。

*国公立大 2 次・私立大入試とは、東京大学、京都大学、大阪大学、慶應義塾大学、早稲田大学、明治大学、日本大学、同志社大学、近畿大学などの入試データ。

Key Strategy 2. TOEIC テストの難しさはリスニングと速読にあり！

TOEIC テストのリスニングテストは、45 分間で 100 問あります。時間も長いですが、読み上げられる速さが 1 分間に 170 語以上のスピードで、たいていの大学入試問題よりも速くなっています。また、リーディングテストも量が多く、新形式問題ではさらに増えています。

	テスト時間	総語数	問題数
TOEIC テスト / Reading	75 分	6500 ~ 7000 語	100

上の数字を単純に割り算すると、1 分間におよそ 85 語以上の英語を処理できなければならないこととなります。もちろん、実際に問題を解くためには、読み返したり考えたりする時間が必要ですから、この倍のスピード、つまり 1 分間に約 170 語のスピードで英文を読む必要があるでしょう。ところが、平均的な日本の大学生が英文を読む速さは 1 分間に約 120 語程度だと言われているから、たいていの受験者はリーディング問題の最後までたどり着けません。したがって、TOEIC テストの最大のポイントは、リスニングもリーディングも分速 170 語で英語を処理できるようになることです。

では、どうすればそういうスピードで英語を理解できるようになるのでしょうか。まず、第一は語彙力の強化です。Paul Nation はじめ多くの英語教育の学者たちが指摘していることですが、リスニングや速読のトレーニングでは 98% 以上の語彙を理解できる素材を使わないと効果が上がりません。別の言い方をすると、98% 以上の語彙が理解できるようになってはじめて、リスニングや速読ができるのです。つまり語彙力がリスニングや速読の基礎ですから、何よりも先に本書の語彙を音からマスターしてください。

次に、単語単位でなくフレーズ単位で意味を認識するように心がけてください。「TOEIC テスト対策に合わせた〈KEY PHRASES〉」(p.IV)でも触れましたが、英語を 1 単語ずつ認識しては時間がかかってしまいます。フレーズが丸ごと耳から、目から飛び込んでくるようになれば、情報処理もすばやくなるはずですよ。

最後に、実践練習は欠かせません。普段から時間を意識して、自分の最速のスピードで英語を読む、聞くという訓練を積んでください。速く読めるようになるためにはできるだけ速く読む、リスニングができるようになるためにはできるだけ多く聞く、という当たり前の努力を毎日たとえ 5 分でも続けてください。日にたった 5 分でも全速力で英語を読んだり聞いたりしていれば、3 ヶ月もすると驚くほど速くなっているはずですよ。

まとめると、次の 3 箇条になります。

TOEIC テスト対策 必勝の3箇条

1. 語彙力を増強する
2. フレーズ単位で意味を認識する
3. 毎日全速力で英語を処理する

Key Strategy 3. TOEIC テスト受験とその後の英語学習

TOEIC テストは適切な対策をすれば確実にスコアアップできる試験ですが、他の試験同様問題形式に慣れる必要があります。目標とする得点が取れるまで、継続してチャレンジし続けてください。点数の伸び方は人それぞれですが、最初の頃には想像もできないほど得点を伸ばす人もたくさんいます。まずは焦らずゆっくり始めてください。

大学・企業などで頻繁に利用されている TOEIC テストですが、他のあらゆるテストと同様限界もあります。「TOEIC テストに出る単語・出ない単語」(p. II) でも述べたように、学術的な文章もジャーナリズムの英語も出題されませんから、TOEIC テストのスコア=英語力というわけでもありません。TOEIC テストを契機に、専門分野で英語を使えるように英語の学習を続けられ、それによって皆さんの世界が広がってゆくことを祈っています。

英語の道は長く、時に険しいでしょうが、あまり速くを見ずに、まずは今日一日を充実させてごください。そして今週も良い週末をお過ごしください。

* * *

本書を出版するにあたっては、何よりかつての教え子達から多くの示唆を頂いたことを記しておきたいと思います。大学受験の雪辱を見事に果たして満点を取得したAさん、社会人になって受験英語を基礎からやり直し970点を取得したBさん、大学入学後すぐにTOEIC対策を始め、1年もたたないうちに950点を取得したCさん、他にも多くの皆様に協力していただきました。英文校閲にあたってはPreston Houser先生をはじめ、何人ものコンサルタントにご助力いただきました。また、本書を企画していただいた小島茂様、久保慶洋様、依田賢樹様、松永正則様、上山匠様をはじめ、多くの方々にご尽力いただきました。編集は蛭田和絵様にご担当いただき、いつもどおり細部にわたるきめ細かい作業と数々の貴重なアドバイスを頂戴しました。深謝。

2016年春 著者しるす

3 本書の効果的な利用例

1) まずは1日1UNITが目標!

本書は基本的に30単語で1つのUNITを構成しています。できれば毎日1つのUNITに目を通しましょう。語彙力アップのためには、**少しずつ確実に進めるよりも、不完全でも一気に多くの単語を覚える方が効率が良い**のです。たとえば1日に3単語を確実に覚えるよりも、うる覚えでよいから30単語のシャドウイングをしてください。1日にいくつ覚えても忘れる率はほぼ同じですから、たくさん覚えてたくさん忘れる方が効率がよいのです。

もちろん、すでにかかなりの英語力がある方は、**どんどん先に進んでください**。ただし、進みすぎて、つらくならない程度にしましょう。

2) 英単語を覚える Step

英単語を覚えるためにはいくつかのステップがあります。次のステップを意識して、単語を自分のものにしてください。

Step 1 単語と出会う

単語のつづり字を眺めるだけではなく、**語形や語源が類似した他の単語と比較**してください (Point! : 文法Check! : 語源Check! など)。その上で、単語の意味を理解し、**明確なイメージ**を持ちましょう。



Step 2 CD・MP3 で音を確認

発音がわからない単語はすぐに忘れてしまいます。まずは**音を確認**して、口に出してみましょう。慣れてきたら**CD・MP3と一緒にシャドウイング**するのがオススメです。



Step 3 自分で発音し、書く

丸ごと覚えるつもりで**KEY PHRASES**を声にしたり、書いたりしてください。受動的に読んだり聞いたりしているだけではなく、**口や手を動かして自分の単語** (発表語彙) にすることが、**長期記憶**につながります。



Step 4 何度も繰り返す

一度覚えたことも、**放っておくとすぐに忘れて**しまいます。繰り返し何度も本書を開いてシャドウイングなどしてください。